

# 若林農林水産大臣のスイス出張の結果概要

平成19年10月  
農林水産省

1. 日時・場所:10月18日(木)～21日(日) 於:ジュネーブ(スイス)
2. 出席者:村上農林水産審議官、吉村国際部長、藤崎寿府代大使 ほか
3. 各種会合等概要:
  - (1) ラミーWTO事務局長との会談(10月19日)
    - ・ 交渉全体の現状評価、今後の見通しについて意見交換を行うとともに、早期合意のためには、農業、NAMAの両議長の下で技術的な論点について事務レベルの議論を精力的に積み上げていくことが必要であるとの考えを伝えた。
  - (2) ファルコナー農業交渉議長との会談(10月19日)
    - ・ 農業交渉の現状評価、今後の見通しについて意見交換を行った上で、我が国としてモダリティに反映させることが必要であると考えている事項として、①上限関税は受け入れられないこと、②十分な数の重要品目が必要であること、③重要品目の取扱いには十分な柔軟性が確保される必要があることを主張した。
  - (3) ステファンソン NAMA 交渉議長との会談(10月19日)
    - ・ NAMA交渉の現状、特に現在の途上国の立場と、これを踏まえた今後の見通しについて意見交換を行った上で、我が国としては議長テキストをベースに議論を行うべきとの考えを表明した。特に品目カバレッジに関しては議長案の我が国、スイス等の異なる扱いを脚注に記載したリストの維持を要請した。
  - (4) ヴァイエス・ルール交渉議長との会談(10月19日)
    - ・ 漁業補助金の取扱いについて、資源の有効な活用に十分配慮しつつ、過剰漁獲をもたらす補助金に限定して禁止すべきとの我が国の立場を主張した。

(以上)